

Hondaの交通安全情報紙



Since 1971



Safety for Everyone

Hondaはすべての人の交通安全を願い活動しています。

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03(5412)1736
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

●編集人：吉田宏樹

※年間購読をご希望の方は、下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエイティブ 安全運転普及本部係
TEL 03 (5439) 1191 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

特別号
2013
SPECIAL

SJホームページは

〈活動拠点・お問い合わせ先〉

Hondaのノウハウを活用した交通安全教育に関心をお持ちの高校、自治体、警察、団体の方は最寄りの本田技研工業（株）安全運転普及本部の地区普及ブロックにご相談ください。

- 栃木普及ブロック（栃木県真岡市） TEL：0285（84）7114
- 埼玉普及ブロック（埼玉県狭山市） TEL：04（2955）5323
- 浜松普及ブロック（静岡県浜松市） TEL：053（439）2316
- 鈴鹿普及ブロック（三重県鈴鹿市） TEL：059（370）1553
- 熊本普及ブロック（熊本県大津町） TEL：096（293）3206
- 本部推進ブロック（東京都港区） TEL：03（5412）1736

特集：Hondaがめざす高校生交通安全教育への想い～考え方と取り組み状況～



道徳心ある交通社会人を育てるための新たな安全教育

Hondaは交通社会人の第一歩となる高校生に対し、交通安全教育を通じ、社会生活におけるルールやマナーの重要性、人への思いやりなど道徳心を養いながら豊かな人間性を育み、若く尊い命を守りたいと考えている。そのためには、高校生が安全運転に関する知識や意識を持ちながら、命の大切さや交通安全について主体的に考え、自ら行動できるようになるための学習機会の提供が必要である。

そこで、Hondaは独自に高校生交通安全教育のプログラムを開発。昨年4月より、熊本県において行政機関や教育機関と連携し、展開した。平成24年度は同県の16の高校で53回開催し、約1万5400名の生徒が参加。そして、Hondaは平成25年度より、この活動を全国へ拡大させるために展開を行っている。今回は特別号として、Hondaがめざすこの活動への想いと取り組み状況を紹介する。

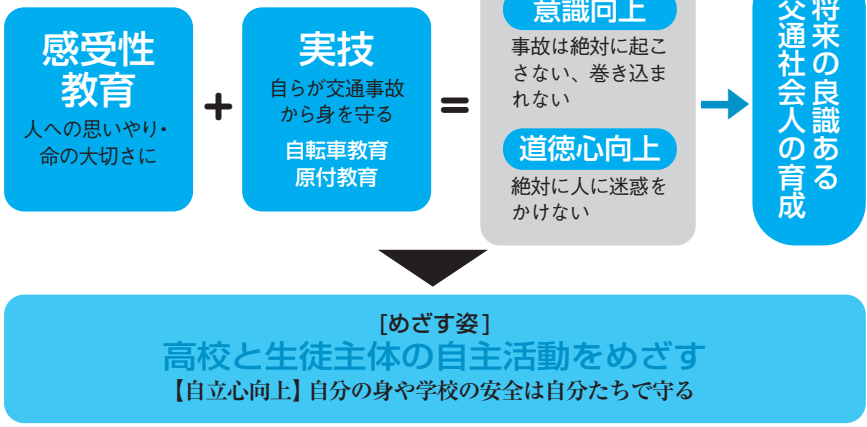
思いやりや譲り合いの心を身につけ、安全意識の向上につなげる

ホンダが普及をめざす交通安全教育とは

ホンダの高校生交通安全教育のベースは、「人を思いやる心を持つ」という教育的な観点がある。そして、自転車や原付の運転時における交通ルールやマナー、危険行動について、感受性教育や実技を通じ、高校生自らが考えることで行動変容を促すことをねらいとしている。

感受性教育では、交通ルールやマナーの重要性、事故を起こしてしまった場合の影響や責任を学ぶことで、人への思いやりや命の大切さに気づいてもらうための教育を行っている。一方、実技では単に自転車や原付の操作スキルではなく、安全運転スキ

● Hondaがめざす高校生交通安全教育の考え方



● Hondaの高校生交通安全教育の内容

感受性教育 交通社会人としての責任を自ら考える座学 事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討議の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。	+	自転車教育 自転車実技 + 座学 実技は、自転車や原付二輪車の運転にまつわる認知、判断について学習し、普段の運転時に起こる危険を安全に、体験を通じてわかりやすく伝え、生徒が主体的に交通安全を考えることを学ぶ。	+	原付教育 原付二輪車実技 + 座学
--	---	---	---	-----------------------------

さらに、将来的に「自らの安全は自らが守る。自らの学校の安全は自分たちで守る」という自立心の向上を図り、高校と生徒が主体となった自主活動に発展させていくことがホンダの高校生交通安全教育の目標なのである。

現在、ホンダが展開している高校生交通安全教育は感受性教育、自転車教育、原付教育の3つで構成されており、各高校の状況に合わせて、生徒への適切な教育ができるようになっている。以下、それぞれの教育内容と進め方を紹介していく。

自転車で事故を起こしてしまった場合の責任を考える

● 感受性教育

感受性教育は、実際に中学生・高校生が加害者となった自転車事故の事例、または交通事故の被害者・加害者による手記をもとに生徒同士が話し合うことで安全意識の向上を図るものである。ここでは、7月8日に兵庫県立小野工業高等学校（兵庫県小野市）で行われた感受性教育の内容を紹介する。

同校では自転車事故の事例を使って先生方がクラスごとに指導を行った。1年3組を担当した長谷川眞一教諭は、最初に新聞記事の切抜きを生徒に示す。兵庫県内で起きた自転車対歩行者の交通事故で、加害者となった自転車利用者の家族に賠償命令が出されたという内容である。自転車事故は身近なところで起きており、自転車を利用する者であれば、加害者になる可能性があることを生徒に示唆する。

感受性教育の流れ

1 生徒一人ひとりが自転車利用者の責任を考える

先生がワークシートの事故事例の設定場面と経緯を説明

ワークシートに生徒が自分の考えを記入

2 班に分かれて、グループ討議を行う

話し合った内容をワークシートにまとめる

3 クラス全体で議論し、結果を共有する

グループ討議の結果を各班の代表者が黒板に書き込む

携帯電話を使用しながら運転することの危険性を共有

ワークシート 事故事例をもとに、日頃の自分の交通行動を振り返ってみよう

事故事例 6 グループ 氏名

携帯電話使用による交通事故
女子高校生(17歳)が夜間、携帯電話を操作しながら無灯火の自転車で走行中、前方を歩行中の女性看護師(57歳)と衝突、看護師には重大な怪我があった。

(1)上記の事故事例を読んで、気づいたことや感じたことを記入しよう。

なぜ事故が起きたのか？

事故を起こす直前の自転車利用者はどのような心理状態だったか？

事故が起きたとどんな影響があるか？

(2)上記に記入した内容をグループで話し合い、話し合った内容をまとめよう。

なぜ事故が起きたのか？

事故を起こす直前の自転車利用者はどのような心理状態だったか？

事故が起きたとどんな影響があるか？

(3)自分がこれまでに遭遇した交通事故やヒヤリとした体験を記入しよう。

(4)今度は、どんな点に気をつけて自転車を利用しますか？今後の決意を記入しよう。

小野工業高校の感受性教育で使用されたワークシート
①～③は左記「感受性教育の流れ」を参照

先生方が感受性教育で使用するのは、ホンダの中学生・高校生への自転車教育指導マニュアル(4面参照)。1年3組では実際に起きた「携帯電話使用による交通事故」を題材にしたワークシートを使って授業が進められた。長谷川教諭が設定場面と事故の経緯を説明。その後、生徒たちは、「この事故がなぜ起きたのか」「事故を起こす直前の自転車利用者の心理状態」「事故が起きたら、後々どんな影響が出るか」といった問いに対し、自分の考えをワークシートにまとめる。そして班に分かれ、グループ・ディスカッションとなる。そこで話し合われた内容を、各班の代表が黒板に書き込む。すべての班が、事故の原因は自転車運転している高校生が携帯電話に夢中になって周りが見えていなかったことであると結論づけた。また、事故の影響として、自分はもちろん事故の相手や自分の家族の

未来が変わってしまうことをクラス全員で共有。最後に、生徒一人ひとりが事故防止に向けた決意をワークシートに記入して終了した。

授業を終えた長谷川教諭は「ホンダの中学生・高校生向け自転車教育用ワークシートは、6つの事故事例が用意されており、その中から選べるようになっていて使いやすいが良いと感じています。私は生徒がやっつけてしまいがちな、携帯電話使用の事例を用いました。交通安全の授業を担当したのは今回が初めてでしたが、しっかりと指導案も用意されていたのでスムーズに進めることができました」とホンダの教材を評価する。「自転車は身近で便利な乗り物ですが、自分の不注意で事故を起こせば、自分の将来も変わるし、事故の相手の将来も変わることを生徒に理解してもらえたと

特集：Hondaがめざす高校生交通安全教育への想い～考え方と取り組み状況～

体験を通して
思いやりの大切さを
理解する

自転車教育と原付教育は実技による体験を通して、人への思いやりや事故から身を守るための大切さを生徒が主体的に考えられるように工夫されている。また、各高校の状況に合わせて、左図のようなSTEP展開をめざしている。

●自転車教育・原付教育のSTEP展開

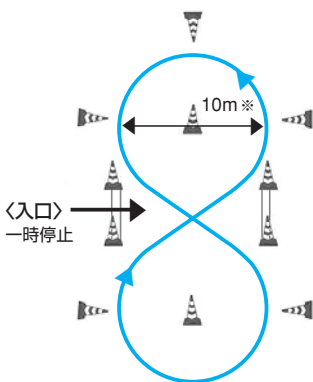


●自転車教育

自転車教育の実技は「8の字走行体験」や「飛び出し体験」などを生徒に取り組んでもらうことにより、周囲の交通状況をきちんと把握することの重要性や、安全走行の注意ポイントに気づいてもらうものである。以下、小野工業高校で自転車通学者を対象に行われた自転車教育の内容を紹介する。指導は本田技研工業(株) 安全運転普及本部鈴鹿普及ブロックのインストラクター1、および兵庫県企画県民部県民文化局交通安全室の指導員の方々が担当した。「8の字走行体験」は、下図のような8の字コースを自転車で行く。各々が単独で走るの



図のような8の字コースの中を20台の自転車が走行する。8の字の交差する箇所では、お互いの動きをよく観て譲り合わなければ20台がスムーズに走行できないことを生徒に気づいてもらう



※コースの直径は基本が8mで、人数によって変更する場合あり



ではなく、1台ずつ順々にコース内に入っていく。コース内を20台で走行してきたら終了だが、最初のうちは20台がコースに入る前に、誰かが止まってしまふ。そこで、インストラクターが「20台がコース内でスムーズに走行するためには、どうしたらいいか」生徒同士で考える時間をつくる。話し合いの中で、他の自転車の動きに注意し、思いやりをもって譲り合うことの大切さに気づいてもらうことがねらいである。

「飛び出し体験」ではまず、生徒に携帯電話の画面を見ながら、自転車を運転してもらおう。クルマのカゲに隠れているインストラクターが自転車の前に飛び出すと、生徒は脇見をしているため、インストラクターの発見が遅れ、すぐにブレーキをかけることができない。次に、脇見をせずに同じ場所を通過すると、今度は安全に停止できた。脇見をせず、しっかりと前方に注意を向けていれば、急な飛び出しなどにも対応できることを、生徒は学んだ。

同校生徒指導部長の西元祥泰教諭は「これまで、警察署やJAFの協力による講



「飛び出し体験」では、携帯電話を見ながら走行すると、クルマのカゲから飛び出す歩行者の発見が遅れることを体験してもらう

話やビデオ視聴による交通安全指導を行ってききました。Hondaの高校生交通安全教育では、これまでできなかった実技による自転車教育ができるということで、協力をお願いしたというわけです。生徒も興味を持って、課題に取り組んでいました。指導を担当した方々が生徒ひとり一人の運転に合わせてアドバイスしていただけた点が良かったと思います」と語る。「実技は自転車通学をしている生徒のみでしたが、それ以外の生徒には感受性教育を実施できたことも効果的だったと思います。感受性教育は教職員が指導するというところで、私たち自身も研修を行い、交通安全について理解を深めることができました。」

●原付教育

●翔陽高等学校での原付教育 (平成24年4月～平成25年9月)

	時期	主な内容	指導者
平成24年度 STEP 1	4月	座学、日常点検、正しい運転姿勢、発進・停止、ブレーキングなど	Hondaのインストラクター
	6月	危険予測トレーニング	
	9月	反応回避ブレーキ、パイロンスラロームなど	
	12月	思いやり運転	
	2月	8の字走行体験	
平成25年度 STEP 2	3月	生徒指導員養成	生徒指導員 (Hondaのインストラクターがサポート)
	4月	座学、日常点検、正しい運転姿勢、発進・停止、ブレーキングなど	
	5月	危険予測トレーニング (2年生)、千鳥走行・一本橋 (3年生)	



「思いやり運転」では1列に並んだ歩行者の真横を生徒が運転する原付が30km/hで走行。1回目は歩行者と約1mの間隔 (写真下)、2回目は約1.5mの間隔 (写真上) をとる



昨年年度の成果を話す。

「思いやり運転」では1列に並んだ歩行者の真横を生徒が運転する原付が30km/hで走行。1回目は歩行者と約1mの間隔 (写真下)、2回目は約1.5mの間隔 (写真上) をとる

「8の字走行体験」は、1台ずつコースに進入し、13台での走行をめざす。コースの入り口は見通しが悪くなっているため、進入時は十分な安全確認が必要となる

原付教育の実技は二輪車の安全運転に必要な知識とスキルを習得し、危険走行や交通法規違反が事故につながることを生徒に理解してもらうものである。以下、熊本県立翔陽高等学校(熊本県大津町)で行われた原付教育の内容を紹介する。

同校は平成24年度、本田技研工業(株)安全運転普及本部熊本普及ブロックとともに原付通学者(2年生・29名)を対象にした交通安全教育を5回実施。熊本普及ブロックのインストラクターが実技と座学を通じて、安全運転の必要性を理解してもらうための指導を行った。

昨年12月に行われた交通安全教育のテ

マは、「思いやり運転」(相手の立場になって考える)。「歩行者の立場で考える」では、歩道がない道路で歩行者の真横を原付が通過した時の感覚を生徒自身に感じてもらう。その上で、歩行者や自転車の脇を通過する際は、どの程度の間隔をあげれば安全かを、生徒一人ひとりに考えてもらうことがねらいだ。この他にも、生徒は高齢者や車いす利用者の立場を疑似体験。

参加した生徒からは「歩行者がいる時は十分な間隔をあげることが大切だと感じました」「高齢者の方は思うように身体を動かさないということがわかったので、高齢者には道を譲ってあげたいと思います」という声が聞かれた。

そして、今年2月には1年間のまとめとして、原付での「8の字走行体験」が行われ、他の交通参加者をよく観ることや、譲り合いの気持ちが必要であることを学ぶ必要がある。翔陽高校生徒指導部交通安全担当の馬本竜司教諭は「1年を通じて、原付通学者の安全運転意識の向上がみられました。事故件数が減っただけでなく、地域からの苦情も激減しています」と、



高齢者の疑似体験では手足に重り、目に視界を制限するゴーグルを装着した状態で横断歩道と同じ距離を歩いている

特集：Hondaがめざす高校生交通安全教育への想い～考え方と取り組み状況～

高校と生徒が主体となった
自主活動をめざす

3年生が2年生に
安全運転指導

翔陽高校では今年3月、平成25年度の活動に向け、原付通学者の中で下級生に安全運転を教えたいという生徒を生徒指導員として養成。そして4月、生徒指導員5名(3年生)が新規原付通学者(2年生・26名)に対し、座学と実技による指導を行った。生徒指導員の一人、濱田智子さんは「私自身も昨年参加して、自分の運転技術を過信していることに気づきました。そうしたことや、原付で通学している時に感じた危険を、指導者として後輩に伝えたいと思っています。後輩にアドバイスする時は、自分の体験を交えながらわかりやすく説明するように心がけました」という。活動を開始して2年目を迎えた翔陽高校では、先輩から後輩へ安全運転への思いを継承するためのサイクルが出来上がりがつつある。



3年生の生徒指導員が2年生の新規原付通学者に座学・実技の指導を担当。ブレーキングでは一人ひとりの運転を見ながら、正しいブレーキ操作をアドバイス

実施後も継続的に支援

このように、Hondaの高校生交通安全教育は、将来的に「自らの安全は自らが守る。自らの学校の安全は自分たちで守る」という意識向上を図り、高校と生徒が主体となった自主活動に発展させることが目標である。

今後、Hondaは教育プログラムに工夫を加えるなど、内容のさらなる充実をめざすとともに、実施高校に対して継続的に支援を行っていく考えだ。



生徒たちでコースの設営や指導ができるようにHondaのインストラクターが生徒指導員を養成。平成25年度は生徒指導員5名が2年生への安全運転教育を担っている



四輪車の間を右折する時は、死角を走ってくる二輪車や自転車が出ていないか確認することを伝える



● Hondaの高校生交通安全教育の実施高校一覧(平成24～25年度 9月13日時点)

県名	校名	実施状況	感受性教育	自転車教育		原付教育		県名	校名	実施状況	感受性教育	自転車教育		原付教育		県名	校名	実施状況	感受性教育	自転車教育		原付教育			
				実技	座学*	実技	座学					実技	座学	実技	座学					実技	座学	実技	座学		
福島	県立福島中央高等学校	○			●			大阪	府立富田林高等学校	○			●			岡山	県立津山高等学校	○		●	●				
	県立福島南高等学校	○		●					府立西野田工科高等学校	○			●					倉敷市立真備陵南高等学校	○		●	●			
	県立新地高等学校	○		●	●				大阪府立淀商業高等学校	○		●	●					県立笠岡工業高等学校	○		●	●	●	●	
	県立相馬農業高等学校	○		●	●				府立淀川工科高等学校	○		●	●					県立和気岡谷高等学校	○		●	●			
	県立あさか開成高等学校	○		●	●				府立貝塚南高等学校	○		●	●					鳥取	県立米子白鳳高等学校	☆		●	●		
	県立保原高等学校	○		●	●				府立能勢高等学校	○		●	●					島根	県立島根中央高等学校	○		●	●		
	県立福島北高等学校	○		●	●				府立阪南高等学校	○		●	●					県立出雲高等学校	○		●	●			
	県立安積御館高等学校	○		●	●				県立姫路工業高等学校	○		●	●					香川	県立香川中央高等学校	○		●	●		
	県立いわき光洋高等学校	○		●	●				県立東播工業高等学校	○		●	●					高知	県立佐川高等学校	○		●	●		
	県立福島工業高等学校	○		●	●				県立明石商業高等学校	○		●	●					私立土佐塾高等学校	○		●	●			
	県立船引高等学校	○		●	●				県立加古川南高等学校	○		●	●					県立小城高等学校	○		●	●			
	県立白河第二高等学校	○		●	●				伊丹市立伊丹高等学校	○		●	●					佐賀	県立杵島商業高等学校	○		●	●		
	県立いわき海星高等学校	○		●	●				県立武庫荘総合高等学校	○		●	●					県立有田工業高等学校	○		●	●			
県立原町高等学校	○		●	●			県立福山鳳鳴高等学校	○		●	●				大分	県立玖珠農業高等学校	○		●	●					
茨城	県立牛久高等学校	○		●	●		県立姫路飾西高等学校	○		●	●				県立宇佐産業科学高等学校	○		●	●						
栃木	県立宇都宮清陵高等学校	○		●	●		県立福岡高等学校	○		●	●				県立高田高等学校	○		●	●						
	県立鹿沼高等学校	○		●	●		県立龍野北高等学校	○		●	●				県立国東高等学校	○		●	●						
	県立宇都宮白楊高等学校	☆		●	●		県立西宮香風高等学校	○		●	●	●	●		県立日出陽谷高等学校	○		●	●						
	県立大泉高等学校	○		●	●		神戸市立摩耶兵庫高等学校	☆		●	●				県立天草高等学校	○		●	●	●	●				
群馬	県立下仁田高等学校	○	●				私立松嶺高等学校	○		●	●				県立東陵高等学校	○		●	●	●	●				
	県立高崎商業高等学校	○		●	●		県立国際高等学校	○		●	●				県立翔陽高等学校	○		●	●	●	●				
	県立前橋高等養護学校	○		●	●		県立小野工業高等学校	○		●	●				県立湧心館高等学校	○		●	●						
	県立太田工業高等学校	○		●	●		県立伊丹西高等学校	○		●	●				県立熊本工業高等学校	○		●	●						
	県立桐生西高等学校	○		●	●		県立明石高等学校	○		●	●				県立熊本西高等学校	○		●	●						
	県立高崎東高等学校	○		●	●		県立姫路北高等学校	○		●	●				私立マリスト学園中学校・高等学校	○		●	●						
私立静岡北高等学校	○		●	●		県立山本東雲高等学校	○		●	●				県立八代東高等学校	○		●	●							
静岡	静岡市立高等学校	○		●	●	●	西宮市立西宮高等学校	○		●	●				県立多良木高等学校	○		●	●						
	県立静岡高等学校	○		●	●		県立尼崎高等学校	○		●	●				県立熊本第一高等学校	○		●	●						
	県立浜松南高等学校	○		●	●		私立川崎医科大学附属高等学校	○		●	●				県立熊本第二高等学校	○		●	●						
三重	県立川越高等学校	○		●	●		県立岡山大安寺中学校・高等学校	○		●	●				県立御船高等学校	○		●	●						
	県立あけぼの高等学校	○		●	●		県立倉敷天城高等学校	○		●	●				私立熊本開新高等学校	○		●	●						
滋賀	県立玉川高等学校	○		●	●	県立総社高等学校	○		●	●				熊本	熊本私立千原高等学校	☆		●	●						

○実施済 ○実施予定あり ☆調整中 ※自転車教育の座学ではHonda自転車シミュレーターによる指導を行っている場合もあり。

●危険予測トレーニングDVD

四輪車、二輪車、自転車、歩行者のカテゴリーごとに動画で再現された交通場面のケーススタディ計25場面が収められており、免許を持たない学生や高齢者の方でも事故防止のポイントが学べる内容になっている。

価格：3780円(税込)

企画・制作：本田技研工業(株) 安全運転普及本部 (株) JAF MATE 社

※詳しくは以下のホームページを参照

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/>

※パソコンで再生することを目的としたDVD-ROMになるため、家庭用DVDプレーヤーで再生することはできません。

ホンダ 危険予測 検索



●中学生・高校生への自転車教育指導マニュアル

中学・高校の教職員や、地域の交通安全指導者が、自転車教育を実施するときに役立つ「自転車教育指導マニュアル」と、指導時に使用する「ワークシート」で構成。実際に中・高校生が起こした自転車事故をもとに安全について考えさせる内容になっている。希望者が自由に活用できるように、以下のホームページからダウンロード(無料)できる。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/junior/>

ホンダ 高校生 交通安全 検索

